

関西支部1998年度第4回例会研究発表募集

日本気象学会関西支部は、1998年度第4回例会（近畿地区）を海洋気象学会第2回例会と共催して次のとおり開催します。多数の参加をお願いします。

日時：1999年2月16日（火）

会場：神戸海洋気象台仮庁舎

テーマ：「海洋と気象」

特別講演：「未定」

発表申込締切：1998年12月1日（火）

要旨集原稿締切：1999年1月18日（月）

申込先 日本気象学会関西支部事務局

〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区気象台気候・調査課内

申込内容：発表者名（複数の場合も明記・発表者に*印・フリガナ）、所属、題目、スライド・OHP・ビデオ等の使用の有無、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス）

申込方法：郵送またはFAX（06-944-2121）で申し込んでください。

受付後、要旨集原稿作成要領をお送りします。

関西支部第20回夏季大学、新しい気象学の普及に成果

関西支部第20回夏季大学は、大阪市立科学館において同館との共催で7月28、29の両日に開催された。後援は大阪管区気象台および日本気象協会関西本部であり、両機関からは多大なる協力を得た。テーマは「日本に影響を及ぼす熱帯の気象—台風・エルニーニョ現象・モンスーン—」とし、28日に饒村曜氏（気象庁予報部）「台風の観測と予報」、藤井健氏（京都産業大学）「台風災害—1991年台風19号を中心として—」、29日に桜井邦雄氏（大阪管区気象台）「エルニーニョ現象の予測に向けて」、加藤内蔵進氏（岡山大学）「モンスーンと日本—四季の降水環境と異常気象との関わり—」の4講を持ち、28日の講義終了後、酒井敏氏（京都大学）による「気象・流体実験」を実施した。今回初めてこの実験についても要旨をテキストに掲載した。今回のテーマはまさに社会的に関心が持たれている昨今の気象とマッチしたものであったため、会場の収容人数をはるかに超える120名余りから申し込みがあり、数十名の方の受講希望に添うことができなかった。なお実際に受講した人数は74名であった。受講者アンケートの回答から見ると、4講すべてについて、市販の成書には見られない内容が多く紹介されたと好評を博し、新

しい気象学の普及という目的を十二分に果たしたと考えられる。特にエルニーニョ現象について、その内容と講義のわかりやすさについて評価が高かった。気象実験では相似則の説明の後、「死水」およびK-H不安定波の実験が披露されたが、いずれも参加者に新鮮な感銘を与えたことがアンケートから明らかである。一方では講義の細部や仕方について忌憚のない意見が述べられており、開催者として大いに参考になっている。夏季大学のあり方についても真剣な回答が寄せられ、講師との懇談の機会を設けるなど今後には反映させるべき点が示唆された。気象実験は今後には期待が寄せられており、新規テーマを開拓して継続するようにしたい。

関西支部では夏季大学を無理なく継続できるようにするため、省力化に努め実務を相当整理、軽減してきたところであるが、今回は要望に応えテキストを事前に手渡す窓口を開いておくこととした。実際に利用した受講者は数名にとどまったが、気象学の普及という目的をよりよく達成するため、今後もこの方向で努力したい。終わりに、講演および展示実験、また受付などの実務に当たられた各位に深謝の意を表する。

（関西支部）